

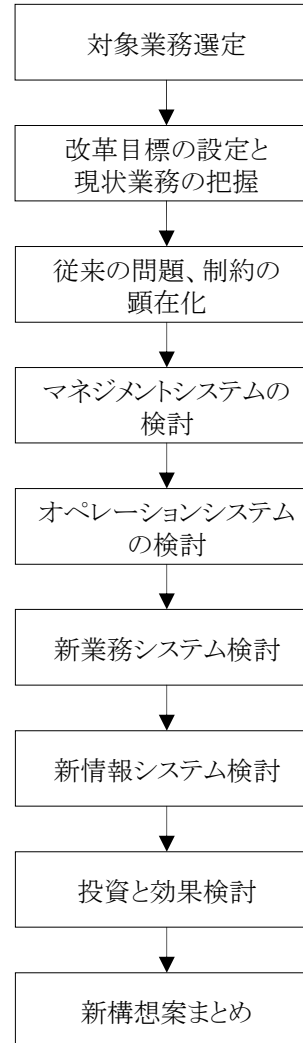
BPRとは高度に専門化され、プロセスが分断された従来の分業型組織から、プロセス志向の新たな組織構造・価値観・評価システムをゼロから作り出すことを狙って、抜本的な見直しを行うことです。プロセスは「最終顧客に対する価値を生み出す一連の活動」と定義されており、BPRは顧客の立場に立ち「QCD、サービス等を劇的に改善するために、ビジネス・プロセスを根本的に考え直し、抜本的にそれをデザインし直すことと定義されます。

BPRでは、フラットな組織、知識重視、エンパワーメント志向を目指し、ITは情報共有や意思決定、プロセスの可視化などの面で重要な役割を果たします。

従来は各種制約から出来なかつたことが、情報システムやネットワークの活用により、時間や距離の制約を外し、幅広い情報の共有化・活用による一体化、連携した仕事のしかたが可能になってきました。この環境変化を活かして、新たな仕事のやり方を実現することが大切です。

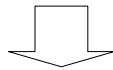
この場合、事業全体からのマネジメントシステムと、個々の作業プロセスシステムの双方を見直す必要があります。

### 展開ステップ



### BPRの背景と概念

ITの進歩で仕事の条件が変わる		
No	今までの方法	新たな方法
1	情報は1箇所で利用	情報は複数の場所で共用
2	複雑な仕事は専門家が行う	誰でも出来る
3	情報連携は集権、分散どちらか	集権、分散どちらも出来る
4	マネージャーが意思決定	誰でも意思決定可能
5	情報伝達に特定場所が必要	どこでも情報を受け取れる
6	面接で情報収集	双方向の通信で可能
7	必要なものは探す	必要なものから現れる
8	計画は定期的見直し	リアルタイム見直し可能
9	情報発信、収集は費用要	費用は掛からない
10	地理的条件で情報格差あり	格差ほとんどなし



業務の流れ、内容、構造を根本的、抜本的、劇的に見直し、職務、業務フロー、管理機構、情報システムを見直すことで、新たな仕事のしかたを整備する。

例、従来の購買部品管理をVMI型に変えることでサプライヤーに任せ、さらに販売計画をサプライヤーと共有することで部品の生産計画を共有し、部品在庫の劇的削減へ